

第 3 回 日向東臼杵広域連合次期広域最終処分場建設検討委員会 議事要旨

日時：令和 5 年 8 月 18 日（金） 13:30～15:40

場所：西郷ニューホープセンター（美郷町）

■ 出席者

(1) 委員

土手 裕 （宮崎大学工学部教授） web
大榮 薫 （宮崎大学工学部准教授） web
佐伯 雄一 （宮崎大学農学部教授） web
原田 隆典 （宮崎大学工学部名誉教授） web
後藤 充 （美郷町区長会長）
黒木 忠幸 （美郷町花水流区区长）
小野 圭一 （美郷町花水流区）
松本 恵喜 （美郷町花水流区）
小野 和久 （美郷町小川区）

(2) 事務局

黒木 秀樹 （広域連合 副長）
川越 康幸 （日向市 環境政策課 課長）
海野 靖幸 （日向市 環境政策課 課長補佐兼環境政策係長）
志田 進一 （日向市 環境政策課 資源循環推進係長）
甲斐 正修 （門川町 環境水道課 課長）
田村 靖 （美郷町 町民生活課 課長）
中田 芳樹 （美郷町 町民生活課 主査）
中原 雅則 （諸塚村 住民福祉課 課長）
黒木 拓実 （諸塚村 住民福祉課 主幹）
黒木 治実 （椎葉村 税務住民課 課長）
尾前 貴大 （椎葉村 税務住民課 主査）
黒木 真 （広域連合 事務局長）
黒木 裕也 （広域連合 業務第 1 係長）
近藤 和房 （広域連合 業務第 1 主任主事）

(3) コンサルタント

林 正樹 （株式会社建設技術研究所） web
中島 教陽 （株式会社建設技術研究所）
和田 崇史 （株式会社建設技術研究所）
池田 勇太 （株式会社建設技術研究所） web

（以上、敬称略）

■ 内容

- 1 開会
- 2 委員の紹介
- 3 あいさつ（委員長）
- 4 協 議（議事進行：委員長）
 - （1）前回委員会の確認
 - （2）予備調査結果（測量調査、気象調査、地質調査）について
 - （3）次期広域最終処分場施設配置計画について
 - （4）予備調査結果（景観調査、排水先調査）について
 - （5）その他
- 5 閉会

■ 配付資料

- 資料 3-1：第 2 回建設検討委員会議事要旨
- 資料 3-2：予備調査結果まとめ
- 資料 3-3：予備調査結果（測量調査、気象調査）
- 資料 3-4：予備調査結果（地質調査）
- 資料 3-5：次期広域最終処分場施設配置計画について
- 資料 3-6：予備調査結果（景観調査、排水先調査）
- 参考資料 1：次期広域最終処分場基本構想 概要
- 参考資料 2：地質調査結果（ボーリング柱状図）

1. 開会

○配布資料の確認。

2. 委員の紹介

○今年度より新たに加わった委員の紹介を行った。

3. あいさつ

○土手委員（委員長）より挨拶。

4. 協議事項

(1) 前回委員会の確認

○事務局より【資料 3-1】、【参考資料 1】に基づき説明。

委員 : 意見なし

(2) 予備調査結果（測量調査、気象調査、地質調査）について

○事務局より【資料 3-2】、【資料 3-3】、【資料 3-4】、【参考資料 2】に基づき説明。

委員 : 基盤として溶結凝灰岩があるため問題ないという判断であるが、火山灰の堆積物との境界に N 値が低い地層があるが問題ないか。

事務局 : 段丘砂礫の一部の N 値が低い。地表から 20m 程度掘削する場合は留意が必要であると考え。その上部は基盤として問題ないと考えている。

委員 : 被覆型最終処分場などの構造物の重量により、基盤となる地層に問題が生じないか。

事務局 : 今後、地質調査により詳細は把握するが、一般的には問題ない硬さを有している。

委員 : 現地における雨の降り方は重要であると考え。今回の気象調査において短期間降雨も把握しているのか。浸出水量解析の際には短期間の降雨も考慮できるとよい。

事務局 : 10 分間雨量を把握している。

委員 : 崩壊面のような跡があるが、最終処分場建設にあたり支障となるか。

事務局 : 掘削する際には対策が必要である。崩壊面跡は痩せた尾根であり、可能な限り掘削しない等の工夫が必要である。

委員 : 崩壊跡が安定しているのか、拡大していく恐れがないか調査してほしい。

委員 : 建設候補地では 15 年以上の計測データがないため、近隣地域の降水量データで補間するということか。

事務局 : 近隣地域のデータを建設候補地の雨量の状況に合うように係数をかける等で補間することを想定している。

(3) 次期広域最終処分場施設配置計画について

○事務局より【資料 3-5】に基づき説明。

- 委員 : 防災調整池から耳川までの区間において、水路の整備は行うのか。
- 事務局 : 今後、設計段階において詳細は検討するが、維持管理のための整備は必要と考えている。
- 委員 : 耳川の水量が多く、大雨時には大内原ダムの水位が上昇する。建設候補地で降った雨の排出先を分散することも検討してほしい。
- 委員 : 搬入道路には側溝等を整備するのか。また、水路を整備した場合は、搬入道路横の沢に排水するのか。
- 事務局 : 搬入道路から町道へ雨水が流れないように側溝を整備する。搬入道路横の沢へ排水する。
- 委員 : 風向風速の調査は実施しないのか。仮迫地区への粉じんが懸念される。
- 事務局 : 予備調査では風向風速の調査は実施していない。今後、生活環境影響調査の中で風向風速は調査し、影響・対策を検討する。

(4) 予備調査結果（景観調査、排水先調査）について

○事務局より【資料 3-6】に基づき説明。

- 委員 : ダムの放流を行わない場合、耳川が満水となる。別の排水先を設ける等、バックアップも必要ではないか。
- 事務局 : 今後の計画設計段階で配慮していきたい。

(5) その他について

○事務局より説明。

- 事務局 : 8月20日に花水流地区を対象とした住民説明会を開催する。次回委員会は2024年2月に実施する予定である。本日の委員会は公開としているため、この後の記者発表は行わない。
- 委員 : 建設候補地に農業用地があると認識している。事業を進めるにあたって留意してほしい。
- 事務局 : 用地選定の段階では、農業振興地域の有無を確認した。田畑があることを確認しているため、必要に応じて農地法等に基づいた手続きを行いたいと考えている。
- 委員 : 来年の2月の委員会では気象調査の報告を行ってほしい。
予備調査が途中段階であるため8月20日の住民説明会で基本同意を得るのはまだ早いのではないかと感じている。構成自治体における最終処分場

整備の考え（庁内の報告、財政負担等）を教えてください。

- 事務局 : 2月の委員会の際に気象データを報告する。随時実施する住民説明会でも報告を行う。地質、測量、景観、排水先調査によってオープン型、被覆型の建設が可能であることが分かった。このことを以って基本同意をもらいたいと考えている。連合としては、構成市町村と随時情報共有を行いながら事業を進めている。
- 委員長 : 流域を含めた構成市町村における住民からの意見について情報収集をお願いしたい。

5. 閉 会

〔了〕